



今月のご案内

森へ行こう

〈添別ブナ林・粘菌観察会〉

きのこや植物とも異なるフシギな生き物「粘菌」。添別ブナ林を散策しながら、この時期に現れる様々な粘菌を探したり、標本作りに挑戦してみましょう。

- 【日程】7月20日(土)
- 【時間】9:30~12:30
- 【集合】添別ブナ林駐車場(9:30)または町民センター(9:15)
- 【参加費】300円 ※ブナさぼ会員は無料。
- 【持ち物】野外で活動できる服装、帽子、虫よけ、あれば虫眼鏡(ブナセンターでも用意します)
- 【申込み】前日の17:00までにブナセンターへ電話
- 【その他】雨天の場合中止

わくわく土曜日ランド

〈木村先生と化石発掘!〉

町内で化石の発掘体験! 沼田町化石館名誉館長の木村方一先生(本町出身)とブナセンター化石ボランティアの亀水さんに化石のおはなしも聞こう!

- 【日程】7月28日(日)
- 【時間】11:30~15:00
- 【集合】ブナセンター
- 【参加費】300円
- 【持ち物】濡れてもいい靴と濡れてもいい運動靴、タオル、水筒、帽子、リュック、着替え。
- 【申込み】前日の17:00までにブナセンターへ電話
- 【その他】(一財)北海道文化財保護協会の主催する〈親子化石発掘体験ツアー〉との合同開催です。



黒松内版・森林療法体験会 おさんぽの会

【主催】森林療法実践プロジェクト (事務局:ブナセンター)

歌才森林公園のコース(往復約3キロ)を、季節の自然を楽しみながらゆったりとウォーキングします。自然を五感で楽しみながら、心も体もリフレッシュしましょう!

昨年同様、6月から11月の間、月1回程度、開催します。(雨天中止・小雨決行)



- 【日程】
 - ★6月30日(日) ●7月14日(日)
 - 9月22日(日) ●10月20日(日)
 - 11月は天気がよければ開催

8月はお休み

- ★6月30日(日)は内容が異なります。
- 【時間】10:00~12:00(目安です)
- 【場所】黒松内温泉ふなの森 左側集合
- 【参加費】無料 【申込み】ブナセンター
- 【持ち物】ウォーキングしやすい服装、靴、帽子、飲み物、虫よけ

工房からのお知らせ

- ブナセンターには3つの工房があります
- 木工房:開館時間中は随時利用できます
- 陶工房:初めての方は教室にご参加ください
- 食工房:主に町の農家さんが冬期間に糀や味噌、豆腐を作ります(興味のある方はまずは見学を)

夜間開放 木・陶工房が無料開放になります
毎週木曜日 18:30~20:30

材料費はかかります

陶芸教室 初心者向けの教室です(予約制)
毎週木曜日 13:30~15:30
18:30~20:30
参加費 粘土代 600円/1kg

完成までに3回の来館が必要です

使用料 210円(大人1名2時間)~
※65歳以上の町民は使用料免除
※別途材料費等がかかる場合があります

工房利用についてくわしくはお問合せください

100 昨年度はブナセンター30周年。皆様のご支援・ご協力に感謝の年でした。

これからは歌才ブナ林天然記念物指定100周年(2028年10月22日)へ。あと4年です!



Facebookはこちらから

発行所:黒松内町ブナセンター
〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440
MAIL bunacent@host.or.jp HP http://bunacent.host.jp
FB http://facebook.com/kuromatsunai.bunacent



粘菌（変形菌）は、動き回って食料をとる動物的な特徴と、胞子によって子孫を増やす植物や菌類的な特徴をあわせもつ、不思議な生き物です。最近では専門の書籍や写真集が出版されたり、テレビ番組でも取り上げられたりと、目につく機会もふえてきました。

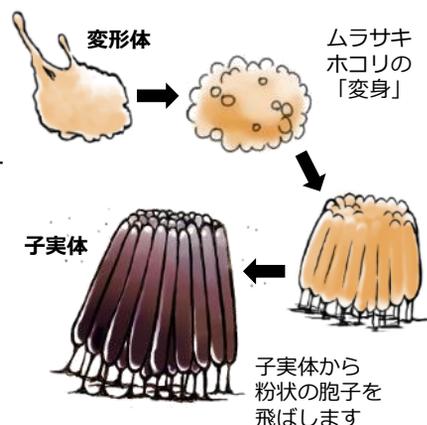
今回は粘菌が動き回るときの姿、「変形体」に注目してご紹介します。

粘菌(変形菌)とは？

粘菌は、植物や動物、菌類とも異なる「アメーバ動物門（アメーボゾア）」という系統に属します。「アメーバ」といえば顕微鏡でないと確認できない小さなサイズのものを想像しますが、粘菌は肉眼でも見つける巨大な「アメーバ」なのです。

変形体は「変身する」

粘菌の、動き回っている時の姿を「変形体」と呼びます。時には数十センチ四方もの大きなスライム状の姿になり、1時間に数センチ程度の速度で移動します。菌類の菌糸が広がる様子とも似ていますが、菌類と違って根を張らず、自由に動き回ることができます。乾燥したり、養分がとれなくなると、静止して繁殖するための姿へと、およそ一晩で変化します。この姿を「子実体」とよびます。



変形体こそ「生きている」

子実体のユニークな姿は魅力的で、森の中で探すときは、つい子実体ばかり探してしまいます。しかし粘菌・菌類の研究で知られる生物学者の南方熊楠は、『変形体こそ活物であり、子実体の方は死物である』という内容の言葉を残しています。

「粘菌が生えた！」と喜ばれる方の子実体は、胞子とその入れ物という静止した物体（死物）であるのに対し、活発に動き回っている変形体の方こそ、粘菌の“生きた”姿だというわけです。

変形体は「食べている」

変形体は、移動しながら、バクテリアや菌類、細菌などを食べます。キノコに取りつき、捕食しているのもよくみかけます。

“食の好み”がはっきりしている種もあります。ブドウフウセンホコリという、藤色のブドウのような子実体をつける粘菌は、決まってブナハリタケというキノコを訪れ、それを捕食します。



変形体は「どこにいる？」

変形体は雨が降った後は、湿った枯れ木や枯れ葉の上など、様々な場所によく見つかります。逆に晴れた日が続くと、乾燥を避けてか、木の洞などに隠れるようにしている様子が見られます。気温が下がるとどこへ行くのでしょうか。冬前には朽ち木の内部に入り込んでいる変形体を見かけました。気温の変化が少ない場所で春をじっと待つ昆虫たちと、同じような場所で越冬するようです。変形体を観察するには、湿り気があり、捕食対象の菌類などがいそうな所を探すのがおすすめです。「今日の天気や気温なら、どこにいるだろう？」と考えながら、粘菌観察を楽しんでみてください！

粘菌に興味があったという方はぜひ観察会（7月20日開催）にご参加ください！